

はじめに ～ ヘリテージマネージャーの役割

ひょうごヘリテージ機構H²O
代表世話人 津枝 勝見

ヘリテージとは、過去から受け継いだものを後世に残し伝えていくこと、そして伝えていく物そのものをいうようです。

ヘリテージマネージャーの定義に、「(眠っているものを)発見し、保存し、活用してまちづくりに活かす」とあるように、私たちは、まずは、先人が残してくれたものの大切さを見つめ、壊すことなく維持するにはどうすればよいか、それを社会にどう位置づけるか、そのために失敗を繰り返しながら様々な手段を講じてきた中で、次の世代に残していくためには使い続けていくことが一番良い、活用すべしという考えに、今は至っているのではないかと思います。リビング・ヘリテージという言葉もできています。

少し前の社会、とくに戦後世代が作ってきた社会の「旧弊からの脱却」「新しいものほど良い」という価値観を、再び転換して、古いものの中に良さを発見し、歴史を大切にしていくという価値観を広めることによって、例えば昨今の古民家ブームを牽引し、風向きを変えてきたのがヘリテージマネージャーだと言えるでしょう。

しかし、「受け継いだもの」を使っていくというだけでは、少し何か引掛かりも感じます。

いつとき解体の恐れがあった西脇小学校は、今や国の指定文化財になりました。正確に文面を記憶してはいませんが、その正門の門柱に「私達は将来の子ども達のため、寄付をして立派な校舎を建てて与える。」というような文面が刻まれていたことを思い出します。ここで学んだ人々は、先人が与えてくれた恩恵を享受したあげく、仕事を得るために一旦はこれをあっさり壊そうとしたのでした。

私達は今「活用して残すのだ」と啖呵を切っている訳ですが、これまでの自分たちがやっていることは、先人が残してくれたものを利用しているだけ、消費し償却しているだけ、ではないでしょうか。もちろんこの点が、いわゆる古民家ブームとは異なる、ヘリテージマネージャーとしての矜持の部分なのですが、さらに話を進めるならば、私たちは、先人からの恩恵を享受する一方で、将来のために、残してやれるものを何か作ってきたでしょうか。

残していくべきものを新たに作ること、これもヘリテージマネージャーを名乗る者としての、次の役割なのだろうと思います。では、何を作ればよいのでしょうか。その点は今後議論を深めていく必要があるようです。